

はじめに

原材料価格やエネルギー価格の高騰に円安による輸入物価の上昇の影響が加わり、埼玉県（さいたま市）の消費者物価は、2021年の終わりから上昇に転じ、物価上昇率は23年1月に3.9%に達した。その後上昇率は徐々に低下し、インフレは沈静化の方向にあるようだ。

地方は物価が安く都会は高い、と言われるが、本稿では物価上昇率ではなく物価水準が都道府県でどの程度異なるのかについて、地域別の物価水準を調査した「消費者物価地域差指数（総務省）」をもとにレポートする。

埼玉県の物価は全国で7番目に高い

23年の消費者物価地域差指数によると、埼玉県の消費者物価「総合」は100.4と全国で7番目に高い。上位には、東京都、神奈川県、北海道、千葉県、山形県、京都府がある。これは全国平均を100として算出したものだが、全国平均を上回るのは島根県までの上位8都道府県のみで、他の39府県は全国平均以下となっている。

●消費者物価地域差指数
(総合、2023年)

(全国=100)

		総合
1	東京都	104.5
2	神奈川県	103.1
3	北海道	101.7
4	千葉県	101.5
5	山形県	101.2
6	京都府	100.8
7	埼玉県	100.4
8	島根県	100.1
9	高知県	100.0
10	宮城県	99.9
43	福岡県	97.1
44	大分県	97.0
45	群馬県	96.4
46	宮崎県	96.1
47	鹿児島県	95.9

10大費目別にみると、食料、

●埼玉県の費目別・消費者物価地域差指数、寄与度、全国順位
(2023年)

(指数は全国=100)

	指数	寄与度	全国順位
総合	100.4	0.40	7
食料	98.1	▲0.60	36
住居	108.3	0.56	4
光熱・水道	97.1	▲0.25	38
家具・家事用品	102.4	0.11	6
被服及び履物	103.5	0.14	7
保健医療	100.9	0.05	8
交通・通信	100.5	0.08	8
教育	96.3	▲0.16	16
教養娯楽	103.2	0.34	3
諸雑費	101.9	0.13	6

資料:総務省「小売物価統計調査(構造編)」(以下同)

光熱・水道、教育が全国平均を下回っているが、その他の費目は全国を上回る。

全国平均を下回っている費目をみると、食料は全国36位(高い順)、光熱・水道は38位、教育は16位となっている。全国平均との差(総合)に対する10大費目別寄与度をみると、食料は総合指数を0.60ポイント、光熱・水道は0.25ポイント、教育は0.16ポイント引き下げており、主に食料と光熱・水道が埼玉県の物価を引き下げていることが分かる。

全国平均を上回る費目を寄与度が大きい順にみると、住居が0.56ポイント押し上げ全国順位は4位、以下、教養娯楽0.34ポイント(3位)、被服及び履物0.14ポイント(7位)、諸雑費0.13ポイント(6位)と続く。埼玉県の物価を押し上げているのは、とくに住居と教養娯楽である。

(近隣都県との比較)

近隣都県と比較するとどのような違いがあるのか、まず首都圏1都3県と比べてみる。1都3県はいずれも全国平均に比べ、住居と教養娯楽が高いのが特徴で、とくに東京都は住居が127.2と突出して高い。

物価の構造が似通っているのは、埼玉県と千葉県、東京都と神奈川県である。埼玉県と千葉県は、住居、教養娯楽が高く教育が低い。東京都と神奈川県は、住居、教養娯楽のほか教育が高いのが共通している。人気の高い私立中学や高校、大学が多いことや、低学年から学習塾に通う生徒が多いことなどが影響しているとみられる。

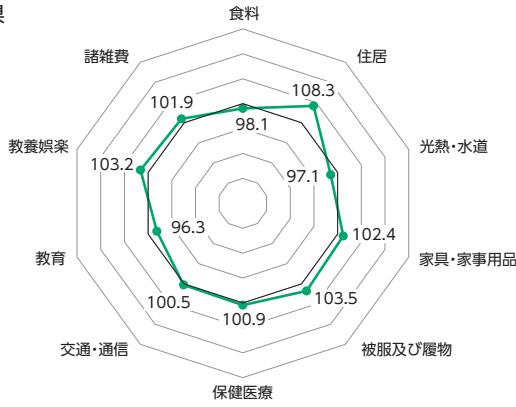
これと対照的なのが群馬県である。群馬県は鹿児島県、宮崎県に次いで全国で3番目に物価が安い。とくに安いのが教育と住居で、教育は全国で2番目に低い。群馬県は東京からも近く、物価が安いので生活者にとって暮らしやすいのではないだろうか。

(全国順位が低下する埼玉県の物価)

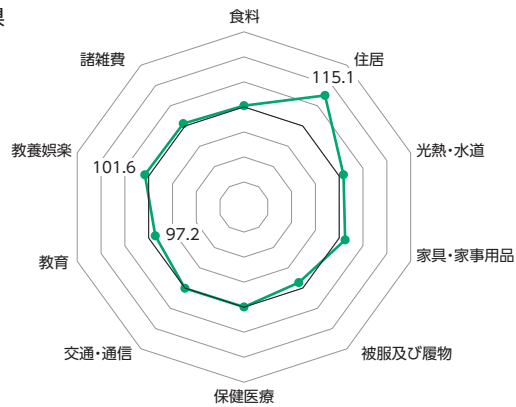
埼玉県の物価は19年以前は東京都、神奈川県に次いで全国3位となるが多かったが、20年は5位、21年以降は全国7位に低下した。

●費目別・消費者物価地域差指数(2023年、全国=100)

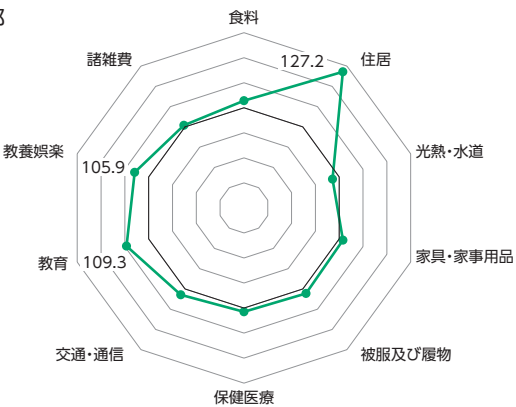
埼玉県



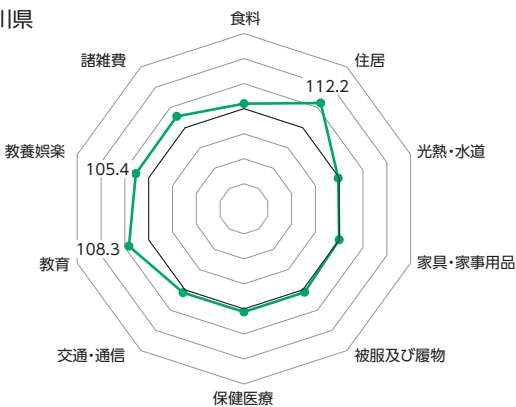
千葉県



東京都



神奈川県



●埼玉県の全国順位の推移(消費者物価地域差指数) (位)

	2019	2020	2021	2022	2023
総合	3	5	7	7	7
食料	18	26	29	33	36
住居	3	4	4	4	4
光熱・水道	45	44	46	43	38
家具・家事用品	5	7	5	6	6
被服及び履物	11	11	6	5	7
保健医療	10	17	22	18	8
交通・通信	4	5	16	9	8
教育	16	16	15	14	16
教養娯楽	2	3	3	3	3
諸雑費	8	5	5	5	6

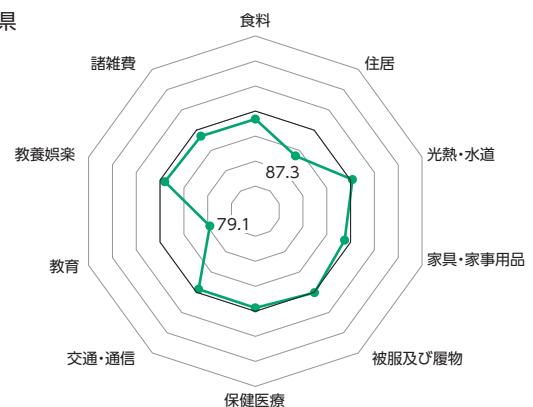
費目別にみると、全国順位を大きく下げているのは、食料、交通・通信である。食料は19年の18位から23年の36位に、交通・通信は4位から8位に下がった。

総合に対する寄与度の変化をみると(19年から23年の変化)、寄与度が低下したのは食料(▲0.75)、教養娯楽(▲0.16)、教育(▲0.11)、交通・通信(▲0.05)、被服及び履物(▲0.03)の5費目だった。全国順位および寄与度の変化をみると、総合の全国順位を下げた主因は食料にあることが分かる。

●全国平均(100)との差(総合)に対する10大費目別寄与度とその変化(埼玉県)

	2019	2023	寄与度の変化 2019→2023年
総合	1.00	0.40	▲0.60
食料	0.15	▲0.60	▲0.75
住居	0.33	0.56	0.23
光熱・水道	▲0.46	▲0.25	0.21
家具・家事用品	0.11	0.11	0.00
被服及び履物	0.17	0.14	▲0.03
保健医療	0.03	0.05	0.02
交通・通信	0.13	0.08	▲0.05
教育	▲0.05	▲0.16	▲0.11
教養娯楽	0.50	0.34	▲0.16
諸雑費	0.09	0.13	0.04

群馬県



●全国平均(100)との差(総合)に対する「住居」の寄与度とその変化(1都3県)

	2019	2023	寄与度の変化 2019→2023年
埼玉県	0.33	0.56	0.23
千葉県	0.25	1.01	0.76
東京都	2.14	1.98	▲0.16
神奈川県	1.61	0.85	▲0.76

さらに、1都3県で最も順位が低くなったのは、上記に加え住居が影響している。埼玉県は住居の寄与度が他の3都県に比べて小さい。23年は東京都で住居が総合指数を1.98ポイント、千葉県で1.01ポイント、神奈川県で0.85ポイント押し上げたのに対し、埼玉県では0.56ポイントにとどまった。また、19年から23年の寄与度の変化幅をみると、埼玉県の0.23ポイントに対し、千葉県は0.76ポイントと千葉県が埼玉県を上回り、住居の順位も20年以降千葉県が埼玉県を逆転し3位となった。

費目別の動向、品目別にみた高い物・安い物

費目別にみて埼玉県の物価が比較的安かった食料と光熱・水道、高かった住居と教養娯楽について、品目では何が安く、何が高いのかみてみよう。

(食料)

埼玉県の食料は全国=100として98.1、全国36位と下位にあり首都圏では最も安い。

生鮮食品をみると、海なし県である埼玉県は水産物は高いものが多い。たい(全国8位)、たこ(10位)、いくら(7位)などが高い。畜産物では牛肉(国産品)(7位)、豚肉(輸入品、ロース)(6位)は高いが、ハム(44位)、ベーコン(45位)は安い。

野菜は安い品目が多い。かぼちゃ(3位)、はくさい、さといも、ごぼう(いずれも9位)は高いが、ブロッコリー(41位)、じゃがいも(44位)、きゅうり(45位)、トマト(38位)などが安い。埼玉県内での生産が多い野菜は安いようだ。果物では、オレンジ(43位)、い

ちご(38位)、さくらんぼ(42位)、バナナ(38位)が安い。

しょう油(44位)、みそ(42位)、酢(42位)などの調味料や、カレールウ、ふりかけ(いずれも41位)も安い。

飲み物では、コーヒー飲料(9位)、炭酸飲料(9位)、果実飲料(4位)は高いが、焼酎(46位)、ウイスキー(40位)といったアルコール飲料は安い。

外食では、スパゲッティ(10位)は高いが、中華そば(47位)、日本そば(39位)、ぎょうざ(42位)、ハンバーグ(39位)、豚カツ定食(41位)、やきとり(40位)が安い。このように、食料品では埼玉県は全国に比べ安い品目が多い。

(光熱・水道)

埼玉県の光熱・水道は97.1、全国38位、首都圏では最も安い。品目別にみると、電気代(2位)、水道料(8位)は高いが、都市ガス代(40位)、プロパンガス(39位)は安い。光熱・水道は、寒冷地ほど暖房需要が大きいため高くなる傾向があり、人口密度が低い地域も供給設備にコストがかかるため高くなりやすい。埼玉県は寒冷地ではなく人口密度も高いため、光熱・水道は全国でも安い。

(住居)

埼玉県の住居は108.3、全国4位と上位にあるが、

●消費者物価地域差指数(2023年)

(全国=100)

	食料	光熱・水道	住居	教養娯楽
1	沖縄県 106.4	北海道 118.3	東京都 127.2	東京都 105.9
2	東京都 102.8	岩手県 112.5	千葉県 115.1	神奈川県 105.4
3	鳥取県 102.8	青森県 112.0	神奈川県 112.2	埼玉県 103.2
4	島根県 102.5	山形県 111.8	埼玉県 108.3	千葉県 101.6
5	北海道 102.4	島根県 110.9	山形県 102.8	京都府 101.3
6	福井県 102.3	福島県 110.3	京都府 100.6	大阪府 100.8
7	神奈川県 102.0	山口県 109.7	静岡県 100.5	宮城県 100.5
8	富山県 101.8	茨城県 108.7	熊本県 98.9	北海道 100.4
36	埼玉県 98.1	福岡県 97.7	北海道 87.2	島根県 95.3
37	愛知県 98.1	東京都 97.2	福井県 86.6	長崎県 95.3
38	福岡県 98.1	埼玉県 97.1	愛媛県 86.0	和歌山県 95.0
43	奈良県 97.4	鹿児島県 93.5	岡山県 84.1	福井県 94.1
44	佐賀県 97.3	和歌山県 93.0	鳥取県 82.7	富山県 94.0
45	群馬県 96.8	滋賀県 92.6	岐阜県 82.4	佐賀県 92.6
46	宮崎県 96.7	兵庫県 91.0	香川県 81.6	鹿児島県 92.0
47	長野県 95.9	大阪府 88.0	石川県 81.2	宮崎県 91.5

さいたま市の小売物価と全国順位(高い順、2023年)

価格が高いもの		価格が安いもの	
(食料)			
たい(8) いくら(7)	たこ(10)		
牛肉(国産品)(7)	豚肉(輸入品、ロース)(6)	ハム(44)	ベーコン(45)
はくさい(9) ごぼう(9)	さといも(9) かぼちゃ(3)	ブロッコリー(41) きゅうり(45)	じゃがいも(44) トマト(38)
ぶどう(巨峰)(7)		オレンジ(43) さくらんぼ(42) アボカド(40)	いちご(38) バナナ(38)
つゆ・たれ(焼肉のたれ)(2)		しょう油(44) 酢(42) カレールウ(41)	みそ(42) ケチャップ(39) ふりかけ(41)
すし(弁当)(にぎりずし)(1)	おにぎり(2)	弁当(幕の内弁当)(44)	調理パン(43)
コーヒー飲料(9) 果実飲料(果汁20~50%)(4)	炭酸飲料(9)	焼酎(46) ビール風アルコール飲料(38)	ウイスキー(40)
スパゲッティ(外食)(10) コーヒー(外食)(セルフサービス店)(2)		中華そば(外食)(47) ぎょうざ(外食)(42) 豚カツ定食(外食)(41)	日本そば(外食)(39) ハンバーグ(外食)(39) やきとり(外食)(40)
(光熱・水道)			
電気代(2)	水道料(8)	都市ガス代(40)	プロパンガス(39)
(住居)			
民営家賃(5) 公営家賃(公的住宅)(市町村営住宅家賃)(4) 公営家賃(UR都市機構住宅家賃)(3) 大工手間代(5)	水道工事費(2)	システムバス(41) システムキッチン(45)	給湯器(38)
(教養娯楽)			
講習料(ダンス)(5) ゴルフ練習料金(8) フィットネスクラブ使用料(6)	講習料(ピアノ)(3) ゴルフプレー料金(4)	文化施設入場料(動物園又は水族館)(39)	

資料:総務省「小売物価統計調査(動向編)」2023年
 (注) 調査対象はさいたま市(本文では埼玉県と表記)、品目は主なものを掲載
 ・()内はさいたま市の全国順位、都道府県庁所在地47市区の順位

首都圏では4番目と最も下位にある。

住居は、家賃や住宅設備、修繕工事費等に関する価格で、なかでも家賃との連動性が高く都市部が高くなる傾向にある。品目別にみると、埼玉県では民営家賃(5位)、公営家賃(市町村営住宅家賃)(4位)が上位にあり、これが住居の物価を押し上げている。このほか大工手間代(5位)、水道工事費(2位)などが高く、システムバス(41位)、給湯器(38位)などは安かった。

(教養娯楽)

埼玉県の教養娯楽は103.2、全国3位と上位にあり、首都圏でも3番目に高い。

教養娯楽は、テレビ、パソコン、新聞・書籍、各種の講習料、映画等の観覧料、ゴルフプレー料金などからなり、これも都市部で高い傾向にある。教養娯楽サー

ビスを提供する際の主なコストは人件費で、賃金水準の高い都市部の価格が高い。

埼玉県が上位にあるのは、スポーツや趣味・娯楽に取り組む人が多いことも影響している。総務省の令和3年社会生活基本調査によると、スポーツに取り組んだ人の割合(行動者率)をみると、埼玉県は69.3%と東京都(74.5%)、神奈川県(71.8%)に次いで3位と高く、趣味・娯楽の行動者率も88.4%と全国で4番目に高い。

品目別の物価をみると、埼玉県は、講習料(ダンス)(5位)、講習料(ピアノ)(3位)、ゴルフ練習料金(8位)、ゴルフプレー料金(4位)、フィットネスクラブ使用料(6位)が高い。

所得水準と物価

物価は高いより安い方が暮らしやすいと言えるが、所得水準も考慮すべきだろう。物価が安くても所得が低ければ暮らしやすいとは言にくい。そこで、地域差価格指数を用いて、物価を考慮した実質所得を都道府県別に算出してみた(所得は厚生労働省「賃金構造基本統計調査」の一般労働者を使用)。

その結果、23年の実質所得(実質年収)が最も多かったのは東京都で556万円、神奈川県554万円、大阪府549万円と続いた。大都市圏の都府県が上位となった。このほか首都圏では、埼玉県495万円(11位)、千葉県480万円(19位)だった。物価が全国で3番目に安かった群馬県は489万円(13位)だった。

(樋口広治)